

短 報

医学生の考える理想の医師像と学生医としての 「誓いの言葉」

第20回医学教育ワークショップ第4グループ
「プロフェッショナルリズム教育に求められるロールモデルとその育成」

¹⁾ 獨協医科大学地域医療教育センター, ²⁾ 熱帯病寄生虫病学, ³⁾ 公衆衛生学, ⁴⁾ 神経内科学,

⁵⁾ 情報基盤センター, ⁶⁾ 呼吸器外科学, ⁷⁾ 生化学, ⁸⁾ 生理学 (生体情報),

⁹⁾ 医学部4年, ¹⁰⁾ 医学部2年

西山 緑¹⁾ 川合 覚²⁾ 小橋 元³⁾ 渡邊 由佳⁴⁾
山下 真幸⁵⁾ 荒木 修⁶⁾ 堀端 康博⁷⁾ 金子堅太郎⁸⁾
前原 稜⁹⁾ 金澤 紀徳¹⁰⁾

Key Word : プロフェッショナルリズム

緒 言

医学教育においてプロフェッショナルリズム教育は最も重要な課題の一つである。医学教育学会倫理・プロフェッショナルリズム委員会では、その目的を「医療や医師に対する社会からの信頼度を高め、この信頼を基盤として国民全体でより良い医療を創っていくことにある」とし、プロフェッショナルリズムに関する教育内容をカリキュラムに導入することを提言している¹⁾。当委員会が2011年度に行ったアンケート調査によると、回答した15の医科大学のうち12大学でプロフェッショナルリズムを科目名あるいは学習目標に明示している²⁾。さらに、2013年度版・医師国家試験出題基準では必修基本事項の冒頭に「医師のプロフェッショナルリズム」が導入されたこともあり、現在は国内のほとんどの医学部でプロフェッショナルリズムに関する教育がカリキュラムに取り入れられている³⁾。獨協医科大学でも、2012年4月より第4学年「今日の医療倫理と福祉」において「医療プロフェッショナルリズム」の講義がカリキュラムに導入されている。しかし、「医師のプロフェッショナルリズム教

育」は単にカリキュラムに導入するだけでなく、まず各大学におけるプロフェッショナルリズムの意味するものを明示することが重要であり、第一歩であることが強調されている⁴⁾。

そこで獨協医科大学では、2015年8月29日、30日に開催された第20回医学教育ワークショップの総合テーマを「プロフェッショナルリズム教育のさらなる展開」とし、4つの小グループに分かれて議論した。その中で第4グループでは、「プロフェッショナルリズム教育に求められるロールモデルとその育成」をテーマに討議を展開した。その結果、ロールモデルの育成のための具体的方策として、以下の3項目を提言した。1) お互いのあいさつを徹底するためにオアシス運動を行う⁵⁾。2) 学生自らがどのような医師になりたいか自分たちのスローガンを作成し、学生医の宣誓式にその言葉を盛り込む。3) ロールモデルとして活躍してくれそうな若手医師を投票により選出する。

このうち2番目の提言にある「スローガンの作成」に着目し、先行研究を調べてみたところ、いくつかの医科大学で類似した事例が実施されていることが明らかとなった。たとえば三重大大学では白衣授与式の際、ヒポクラテスの誓詞が唱和されている⁶⁾。慶応義塾大学ではプロフェッショナルリズムの育成を目的に、2007年の第2回白衣式より、自分たちの理想とする医師の在り方を自らの言葉で表現する「誓いの言葉プロジェクト」を実施し

平成27年11月25日受付, 平成27年12月15日受理
別刷請求先: 西山 緑

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880
獨協医科大学 地域医療教育センター

表1 アンケート調査項目

- | |
|--|
| <p>1. あなたにとってどれが最も理想の医師像に近いですか。1つ選んでください。</p> <p>コミュニケーションが上手な医師
 苦難の状況でも逃げない医師
 人の気持ちを思いやることのできる医師
 感情豊かな医師
 謙虚な心を持つ医師
 患者に尽くせる医師
 患者に安心感を与えられる医師
 人の痛みのわかる医師
 良質な医師を育てられる医師
 人間性豊かな医師</p> <p>2. あなたが良い医師を目指す上でのキーワードはどれですか。</p> <p>総合的診断能力, 地域医療, 医師としての職責, プロフェッショナリズム, ヒューマニズム, 患者中心の医療, 自己研鑽, チーム医療, 奉仕の精神, 人類愛, 説明責任, 利他主義, 人間性, 卓越性</p> <p>3. 学生医 (Student Doctor) となると誓うことを書いてください。たとえば、「人の痛みがわかるよう努力します」「相手を思いやる気持ちを忘れません」など、書いてください。</p> |
|--|

ている⁷⁾。また、弘前大学では、臨床実習開始前の Student Doctor (SD) 章授与式の際に、ヒポクラテス誓詞を模した弘前大学独自の誓いの言葉を読み上げている⁸⁾。

獨協医科大学では、臨床実習開始前に学生医 (Student Doctor) 認証式が行われており、学生代表のあいさつと「誓いの言葉」の唱和が行われている。そこで、今回は学生としてどのようなことを目標として臨床実習に臨みたいか、に関する現状を知る目的で、2015年度に在籍する第4学年を対象にしたアンケート調査(表1)を実施した。アンケート調査では学生の理想とする医師像に関して質問し、その上で各学生に学生医としての「誓いの言葉」を作成してもらった。

方 法

本調査は、第4学年の「今日の医療倫理と福祉」における「医療プロフェッショナリズム」の講義終了後2015年9月2日～9月9日において、コンピュータによる学習・授業支援システム(LMS)を使用し、表1のアンケート調査を実施した。本アンケート調査の設問1の理想の医師像の選択項目は、第20回医学教育ワークショップの議論と先行研究⁹⁾を参考に選抜した。設問2のキーワードに関しては、「医療プロフェッショナリズム」の講義で説明した言葉から選択肢を作成した。倫理的な承諾として、本研究結果は、LMSを通じて開示され、研究参加に同意しない場合は、集計から除外するこ

とを約束した。LMSより得られたデータは、エクセルの表に保存され、集計された。

結 果

2015年度第4学年126名中、82名が回答した。回答率は、65.1%であった。

図1にアンケート調査の結果を示した。上段には理想の医師像として選んだ学生数をグラフに表示した。最も多かったのが、「人の気持ちを思いやることのできる医師」16名と「患者に安心感を与えられる医師」16名であった。下段は、学生が良医のキーワードを重複可で自由に選んだ結果である。最も多かったのは、コミュニケーションスキルで47名、次いで、人間性で43名、その次には同数で総合的診断能力とチーム医療が32名であった。最も少なかったのは、利他主義5名であった。

次に、表2には、各学生が作成した「誓いの言葉」の代表例を現行のものと比較して示した。82名の学生が各自考えた宣誓の言葉の属性を考えて群分けしたところ、「相手の気持ちを考える思いやり・患者第一に考える」が18名と最も多く、次に、「痛み・苦しみに共感する」10名、「学習意欲・向上心」10名、「謙虚」9名、「話を聴く・コミュニケーション」7名、「寄り添う・心の支え」6名、「同じ目線・視点」5名、「プロ意識・プロフェッショナリズム」4名、「信頼される」3名、「奉仕の精神」3名、「学生医」3名、「プライバシーの保護・守秘義務」2名、「諦めない」、「誠実」各1名であった。

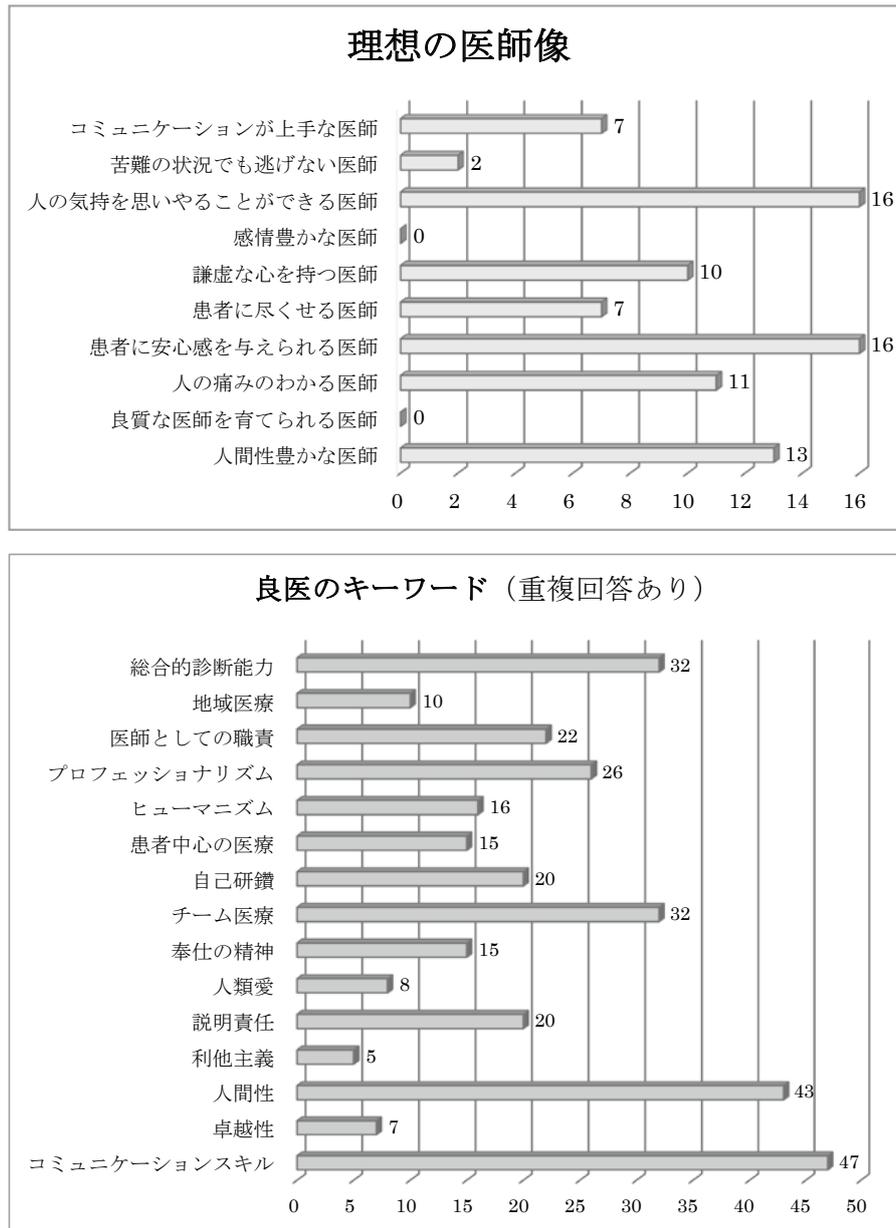


図1 医学生の考える理想の医師像と良医のキーワード

考 察

この度の調査結果より、2015年度において第4学年に在籍する学生が考える理想の医師像は、「人の気持を思いやることのできる医師」、または「患者に安心感を与えることのできる医師」であることがわかった。一方で、良医に関しては、「コミュニケーションスキル」と「人間性」を磨くことが必要だと考える学生が多くみられた。東北大学の臨床実習生に対する同様の調査では、「人間性豊かな医師」、「良質な医師を育てられる医師」を理想の医師像として挙げる学生が多く⁹⁾、各大学間で若干の違いがあることが示唆される。また、本学学生の

「誓いの言葉」としては、「相手の気持を考える思いやり」や「患者第一に考える」という内容のものが最も多く、「痛みや苦しみに共感」、「寄り添う・心の支え」と合わせると34名で、これは全体の40%を超えていた。

第20回医学教育ワークショップの第4グループでの討議では、ロールモデルとして適切な属性として、「相手を思いやる気持を有する」、「挨拶ができる」、「時間を守る」、「嘘をつかない」、「苦しい局面で逃げない」、「良き相談相手になることのできる」、「他人の意見を聞くことのできる（謙虚）」等が挙げられた。これらの見解は、この度の調査で明らかとなった学生の意見とも整合性があり、教員と学生の考えるロールモデルに大きな乖離は

表2 学生の考えた「誓いの言葉」の例(上)と現在の「誓いの言葉」(下)

<p>学生の考えた「誓いの言葉」の例(一部改変)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師になる上での技術や能力だけでなく、患者さんとの接し方やチーム医療について積極的に学び、患者さんやその家族、医療従事者に思いやりのある態度で接します。また、挨拶もしっかりと行いたいと思います。 2. 患者さんとその家族を始めとした、周りの皆さんを第一に考える謙虚な医師を目指します。指導してくださる医療関係者の皆さんや共に研鑽する同期を大切に、切磋琢磨していきます。自己管理を徹底し、信頼と安心感を与えられる品性のある学生医を目指します。 3. 知識を深めるのと同時に、患者さんの体の痛みだけでなく、心の痛みもわかるように、教えてくださる指導医のもと努力します。
<p>現在の「誓いの言葉」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の建学の理念に則り、信頼される医師を目指して臨床実習にのぞみます。 1. 本学学生として、恥じない態度・服装で、さわやかな挨拶・返事を心掛け、規則正しく臨床実習に望みます。 1. 今まで培ってきた知識や技術を活かし、患者様を第一に考え臨床実習に臨みます。 1. 診療チームの一員として自覚を持ち、医師以外の医療スタッフと協調し合い臨床実習に臨みます。 1. プライバシーの保護に努め、個人情報の漏洩に十分注意して臨床実習に臨みます。

上段には、学生が考えた宣誓の言葉の中で多くの学生が支持した要素が含まれている例を挙げる。下段には、その比較のため、現在、Student Doctor 認証式で唱和されている言葉を記した。

ないと思われる。特に、教員側の意見として、挨拶が大切であるとの意見の一致があり、市町村や小学校で青少年育成事業として推進されているオアシス運動に言及した⁵⁾。オアシス運動とは、「おはようございます。ありがとうございます。失礼します。すみません」の頭文字をとって命名されたものである⁵⁾。

医学教育において良医となるべく能力(コンピテンシー)を獲得し卒後も生涯にわたる継続した知識と技能の習得に自己研鑽する必要がある¹⁰⁾。しかし本研究結果から良医のキーワードとして自己研鑽を選択した学生は20名と多くはなかった。「誓いの言葉」でも「学習意欲・向上心」を主とするものは10名であった。このように、本研究結果では、理想の医師像が社会や患者に対する態度や姿勢に偏重している結果となった。これは、そもそもプロフェッショナルリズム教育が医師の社会における信頼回復のために始まったものであるからに他ならない。医師に向けられる社会の目は年々厳しくなっており、信頼が低下する状況を招いているため、信頼回復のためには、どのように患者や社会と向き合い行動していくかということがプロフェッショナルリズムの基本概念になっている¹¹⁾。また、本調査は臨床実習が開始される前であるため「良質な医師を育てられる医師」に投票がなかったが、前述した臨床実習生を対象に行った調査では多くの学生が理想の医師として挙げている⁹⁾。従って、臨床実習開始後には医師の教育者としての側面の重要性に気づくことが予想される。

これまでの調査によると、良医のロールモデルとなる医師のもとで学びたいと考える学生が多いことが報告されている⁹⁾。そこで、第4グループの討議では、ロール

モデルの育成法のひとつとして、活躍が期待される若手医師を投票により選出することが提案された。つまりロールモデルの素養をもつ人材を明確にすることで、接する学生にとって良医の定義が分かり易くなるとともに、選出された本人の励みにもなるという相乗効果が期待される。ただし、選出方法については、上司によるベスト・レジデントの選出、医師以外の医療従事者の投票による選出、臨床実習を修了した学生の投票による選出等が挙げられ、今後さらに議論を深める必要がある。しかし、一方でロールモデルの選出は医師像の幅を狭めてしまう危険性がある。そのため、ロールモデルは理想のものとして、日頃から技能や学業の達成度を定期的に指導者からフィードバックを受け、自己評価することが必要となる¹²⁾。我が国で導入されているコンピテンシー評価としても、筆記試験、OSCEなどのパフォーマンステスト以外にも、学生の診療行為を観察評価する診療現場での評価(Work-based assessment)もあることが報告されている¹⁰⁾。

現在使用されている獨協医科大学 Student Doctor 認証式の宣誓文には、今回学生が考えた「誓いの言葉」にも多くみられた「思いやり」や「患者様第一」の言葉が使われている。また、臨床現場での「挨拶」、「チーム医療」、「プライバシーの保護」といった他者への配慮についても含まれている。したがって、「ヒポクラテスの誓い」あるいはその類似の誓詞をそのまま使用する大学が多い中^{6,8)}、この宣誓文は本学の学生や教員の思いを反映できている誓詞と言えるであろう。しかし、一方で医学知識や技術を深めることも学生医として忘れてはならないものであるため、追加を検討しても良いと考える。

また、今後さらに学生の心に深く残る「誓いの言葉」とするためには、学生自らが目標とするスローガンを付加することで、獨協医科大学独自のプロフェッショナルリズム教育の一助となることが期待される。さらには、この「誓いの言葉」を忘れることなく、自分自身が良医のロールモデルになるよう自己研鑽することで、教育者の立場として後輩たちに教えていく姿勢が自然と身につけていくことが望まれる。

謝 辞 獨協医科大学の第20回医学教育ワークショップを企画し運営して頂いた増田道明教務部長、教務課のスタッフの皆様方に、深く感謝申し上げます。

文 献

- 1) 宮田靖志, 野村秀樹, 尾藤誠司, 他: 提言 医師養成課程におけるプロフェッショナルリズム教育の導入と具体化について 第16期日本医学教育学会倫理・プロフェッショナルリズム委員会. 医学教育 **42**: 123-126, 2011.
- 2) 朝比奈真由美, 河本慶子, 宮田靖志, 他: 医師養成過程におけるプロフェッショナルリズム教育の現状調査. 医学教育 **43**: 447-452, 2012.
- 3) 厚生労働省: 平成25年版医師国家試験出題基準について. 必修の基本事項 http://www.mhlw.go.jp/topics/2012/05/dl/tp120510_05.pdf (アクセス平成27年11月4日)
- 4) 大生定義: 医学教育とプロフェッショナルリズム. 日医大医会 **7**: 124-128, 2011.
- 5) 寝屋川市ホームページ: 青少年育成市民啓発事業. <http://www.city.neyagawa.osaka.jp/kurashi/komokubetsu/kyouikusupotu/seisyounenkyouiku/1377149839529.html> (アクセス平成27年12月11日)
- 6) 後藤道子, 津田司, 横谷省治, 他: 三重大学における白衣授与式の意義とその評価. 医学教育 **40**: 123-127, 2009.
- 7) 戸谷遼, 奥山訓子, 神山圭介, 他: Medical professionalism 教育の一環としての白衣式における誓いの言葉プロジェクト. 医学教育 **42**: 283-287, 2011.
- 8) 加藤博之, 松谷秀哉, 大沢弘, 他: 臨床実習開始前に行う「SD章 (Student Doctor 章) 授与式による医学生へのプロフェッショナルリズム教育の試み」. 21世紀教育フォーラム **8**: 31-37, 2013.
- 9) 筒井美穂, 奈良正之, 金村政輝他: 臨床実習生が考える, 良き医師になるために必要であること. 医学教育 **42**: 367-370, 2011.
- 10) 田邊政裕: 特集医師国家試験を考える1. 我が国の医師国家試験は卒前医学教育から卒後研修へのシームレスな意向を担保しているか. 医学教育 **46**: 1-8, 2015.
- 11) 宮田靖志: 特集プロフェッショナルリズム教育の現在とこれから3. プロフェッショナルリズム教育の10の視点. 医学教育 **46**: 126-132, 2015.
- 12) Murphy D, Aitchison P, Hernandez Santiago V, et al: Insightful practice: a robust measure of medical students' professional response to feedback on their performance. BMC Medical Education **15**: 125, 2015.

Ideal Physician and Oath-writing as a Student Doctor by Medical Students

Midori Nishiyama¹⁾, Satoru Kawai²⁾, Gen Kobashi³⁾, Yuka Watanabe⁴⁾, Masayuki Yamashita⁵⁾,
Osamu Araki⁶⁾, Yasuhiro Horibata⁷⁾, Kentaro Kaneko⁸⁾, Ryo Maehara⁹⁾, Tadanori Kanazawa⁹⁾

¹⁾ *Community health and Medicine Education Center, Dokkyo Medical University*

²⁾ *Department of Tropical Medicine and Parasitology, Dokkyo Medical University*

³⁾ *Department of Public Health, Dokkyo Medical University*

⁴⁾ *Department of Neurology, Dokkyo Medical University*

⁵⁾ *Center of Medical Informatics, Dokkyo Medical University*

⁶⁾ *Department of Thoracic Surgery, Dokkyo Medical University*

⁷⁾ *Department of Biochemistry, Dokkyo Medical University*

⁸⁾ *Department of Physiology and Biological Information, Dokkyo Medical University*

⁹⁾ *The 4th year student, Dokkyo Medical University*

¹⁰⁾ *The 2nd year student, Dokkyo Medical University*